

教員名

後藤こず恵

企画名

神戸イノベーターズグランプリ(神戸プリン) 研究演習Ⅱ

商品開発型/地域活性化型  
イベント企画型/情報分析型  
企業



#### 企画・活動概要

<主なイベント>

9/28(土)開会式

10/16(水)本社・工場見学会

11/30(土)中間プレゼンテーション会

1/11(土)最終プレゼンテーション会

研究演習Ⅰを受講している学生15名が参加し、3チームを編成して参加した。  
3チーム中、1チームが決勝に進出した。

それぞれのチームにおいて実体験を重視し、工場見学以外にもフィールド見学、試食会などを通して自分たちが自ら気づいたことに基づいて企画を立案することができた。

#### 経緯・背景・目的

ゼミ活動では商品企画のプロジェクトに参加し、マーケティングの考え方に触れながら消費者のニーズを理解して課題を探り当て、それに対する解決方法を企画立案し、プレゼンテーションや企画書などでわかりやすく提示することを目指す。特に研究演習Ⅱでは企画の実現可能性を検証することに力点を置き、チャネル構成員にインタビューを行ったり、ターゲット顧客の企画に対する反応を探った上で仕上げ作業に入った。このことにより、アイデアに新規性があるだけでなく、企画が実社会で受け入れられるものかどうかということについてその確認方法も含めて学ぶことができると考える。

#### 取り組む課題

後藤ゼミAチーム・・・持ち歩き可能なカスタマイズプリンのお店について<ポップアップストア トーラク>  
チーズロール・・・ママ友のランチ会に持っていきける華やかなプリン<神戸プリン～SAISON～>  
たっぷり卵サンド・・・駄菓子を買う大人に向けたプチプリン

#### 本学(学生)の役割

(株)トーラクの抱える課題に対して学生ならではの観点から新たな解決方法を提案する。

#### 活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

後藤ゼミAチーム・・・当該チームは神戸プリンの課題に取り組む際に丁寧な試食を重ね、食材同士の相性に注目し、プリンの新しい食べ方の提案とそれをコミュニケーションできる顧客接点としてポップアップストアを提案した。企画段階では神戸マルイの営業担当者から出店に関する事項を教示してもらい、詳細な出店計画を提示することができた。このような活動を通して、定型的な仕事以外の提案を行う際の難しさとやりがいを感じ取ってもらえたと考える。

チーズロール・・・当該チームはターゲット顧客へのインタビューやアンケート調査を丁寧に分析し、そこで寄せられた声を元に自分たちのアイデアを修正し、食シーンに沿った商品属性を考案することができた。特に試作品の製作においては授業時間外にも相当な時間を作業に充て、プレゼンテーションでは分かりやすい説明資料として提示できた。このような活動を通じて自らの先入観を捨て、顧客の声に耳を傾けることの重要性を知ることができたと考える。

たっぷり卵サンド・・・当該チームは中間プレゼンテーションまでにはまとまったアイデアが得られにくかったが、中間プレゼンテーションでいただいた審査員の先生方のご意見を真摯に受け止め、提案内容の再構築を行った。その結果、ニッチな市場ではあるが神戸プリンの持つブランド価値を活用できる市場として駄菓子店の市場に着目し、オリジナリティに溢れる提案をすることができた。このような活動を通じて、マーケティングプラン作成の難しさと興味深さを感じ取ってもらえたと考える。

#### 指導教員および関係者の紹介

指導教員 後藤こず恵

参加学生 柴原 未有、竹谷 裕介、牧戸 一真、三木 しょう平(しょうは外字)、山田 知輝、山本 純平、山本 真嵩、木下 界清、斉藤 康嘉、清水 晃司、土光 真帆、トラン ゲンダイナム、福知 龍太郎、藤崎 蒼士、川西 悠希

協力企業 (株)トーラク

